

“足”、“脚”、“腿”の基本義とその意味拡張<sup>1</sup>  
A Study of the Basic Meaning and Sematic Extension of  
Chinese "Zu", "Jiao" and "Tui"

日下部 直美  
Naomi KUSAKABE

## I. はじめに

現代中国語の身体部位名詞である“足”、“脚”、“腿”はそれぞれ「足」を表す。これらは全て「足」という<身体部位><sup>2</sup>を表す意味から異なる意味へと拡張している。本稿では、認知言語学の「メタファー」、「メトニミー」などの概念を用い、身体部位名詞の“足”、“脚”、“腿”が基本義である「足」の意味から拡張している認知メカニズムについて明らかにする<sup>3</sup>。

## II. “足”、“脚”、“腿”の基本義

「足」を指す語として、“足”、“脚”、“腿”を挙げることができる<sup>4</sup>。“脚”はくるぶしから先の部分を指し、“腿”は付け根から足首の部分を指す。は、“一只脚”[一本の足]、“一只腿”[同上]と表すことができるが、“足”は、“\*一只足”<sup>5</sup>ということとはできない。つまり、“脚”、“腿”は単独で一単語として用いることができるが、“足”は単独で用いることはできず、“赤足”[裸足]、“平足”[偏平足]等のフレーズや、“无所措手足”[手の施しようがない]といった慣用句、“画蛇添足”[蛇足]のような成語で用いられる<sup>6</sup>。

以下、“足”、“脚”、“腿”のプロトタイプの意味である「足」の例を挙げる<sup>7</sup>。

- (1) 研究发现, 肥胖青少年儿童不仅身体笨重、行动迟缓、活动能力下降, 还常伴有平足、膝内弯、下肢弯曲、脊柱和椎间软骨损害等。

[研究によると、肥満の若者児童は身体が重くて動作が遅く、活動能力が低下しているだけではなく、偏平足で膝が内側に曲がっており、下肢が歪曲し、脊柱と椎間の軟骨が損傷していることなどが明らかとなった]

- (2) 乒乓球队有的运动员失去双腿, 靠轮椅行走, 还有的是失去一只腿, 安装了假肢, 由于训练时间长, 运动量大, 大部分选手全身疼痛。

1 本稿は、名古屋大学大学院国際言語文化研究科に提出した修士論文の一部を大幅に加筆・修正したものである。

2 記号<>は意味を表し、【 】は概念を表す。以下これに従う。

3 本研究で用いるメタファー、メトニミーの概念は初山(2002)p.65、76の定義に従う。この定義は、佐藤(1978)(=1992)の考え方に基づき、まとめたものである。

4 “脚”、“腿”は身体部位である「足」の特定の部分を指すため、本章では、“脚”、“腿”両者の意味を含んでいる“足”を用いて、総称的な「足」を表すこととする。

5 「\*」はその用例が不適格または不自然であることを表す。

6 “足”は、“脚”、“腿”とは、表す意味範疇が異なっていると考えられる。“脚”、“腿”は単独で具象物としての身体部位である「足」を指すことができるが、“足”の場合は単独で用いられることはなく、身体部位そのものを表すことはできない。

7 引用例文の出典は全て「北京語言大学中国語コーパス」：北京语言大学汉语语料库(BCC) (<http://bcc.blcu.edu.cn/>) で検索したものである。例文の日本語訳は筆者による。

[卓球チームのある選手は両足を失って車椅子で移動したり、片足を失って義足を付けていたりする者もいる。練習時間が長く運動量が増えることにより、多くの選手は全身に痛みが生じている]

- (3) 这时，你才能真正体会到艰苦劳动后的愉快是什么样的滋味。虽然两只腿还在打抖，肩头像刚受火灼过似的热辣辣，暂时都忘掉了。

[その時、苦労した後の楽しさがどのようなものかを本当に味わうことができた。両足がまだ震えており、肩が火で焼かれたばかりのように熱くなっているが、しばらくの間、忘れてしまっていた]

以下、この基本義から拡張したと考えられる意味について分析していく。

### Ⅲ. “脚”の参照点構造に基づいたメトニミー的拡張

本節では、“脚”が量詞として用いられる場合について見てみる<sup>8</sup>。量詞としての“脚”は、〈足を用いて行う動作〉を数える際に用いられることが多い<sup>9</sup>。

- (4) 伟伟边哭边跑回家，奶奶从厨房里三步两脚跑出来，赶忙问“怎么回事?? 跣了? 跌疼那里哪?” 伟伟说“不是，小宁踢了我一脚”。奶奶一听孙子给别人欺侮了，不问青红皂白，马上说“他踢你一脚，你就踢他两脚，别以为我们伟伟是好欺侮的。”

[偉偉が泣きながら家に帰って来たので、おばあちゃんは台所からバタバタと出て来て、「どうしたの?? 転んじやったの? 転んだところが痛いのか?」と慌てて聞いた。偉偉は「違うよ。寧ちゃんが僕を蹴ったんだ」と言った。おばあちゃんは孫がいじめられたと聞き、有無を言わず、「あの子がお前を一回蹴ってきたら、お前は二回蹴り返しなさい。うちの偉偉がいじめられっ子だと思われぬようにするのよ」とすぐに言った]

- (5) 他们先用木棒往我腰部打了一棍，然后踢上几脚，将我踢倒在地。

[彼らはまず木の棒で私の腰を一度打ち、そのあと数回蹴って私を地面に蹴り倒した]

これは、「足」を用いる動作を数える場合に“脚”を用いている。すなわ、「足」を参照点として言語化し、その動作を行う回数を表していると考えられる。

この場合、「足」の具体的意味の領域内に存在する〈身体部位〉としての意味を参照点として、〈足を用いて行う行為〉にアクセスしていると考えられる。

動作の回数を数える量詞として用いられていることから、「足」を参照点とした〈足を用いて行う行為〉を一つのまとまりのある動作の「回数」として捉えていると考えられる。すなわち、〈身体部位〉という具体的意味から抽象的意味である〈足を用いて行う行為〉として

<sup>8</sup> “足”、“腿”は量詞として用いられない。これは、「足」の部分の中で、様々な動作を行う際によく用いられるのは“脚”の部分であるため、“脚”の部分が認識されやすいことに基づいていると推測できる。

<sup>9</sup> “脚”が名量詞として用いられる場合として、“一脚泥”[片足に付いた泥]、“两脚水”[両足に付いた水]等が挙げられるが、これは、数詞が“一”、“两”に限られるため、張麗群(2000)が述べている“一+身体部位名詞”が“満”を表す用法に含まれるといえる。「足」は二本あるため“两”を用いることができるが、こちらでも下肢全体を指していることと捉えることができる。量詞として用いられる身体部位名詞は【容器】として見なされ、【内容物】は「実体」と「非実体」があり、【付着】の意味として見なされるが、身体部位の持つ形状・機能等が拡張した意味として見なされない。よって考察の対象としないこととする。

メタファー的拡張が行われ、さらにその行為を一つのコトガラとして数え、〈足を用いた行為を行う回数〉という意味へと拡張していることが分かる。したがって、この場合はメタファーとメトニミーが相互に関連しているといえる。

#### IV. “足”、“脚”、“腿”の【移動】のスキーマに基づいた拡張

また、「足」で歩いたり走ったりできることから、【移動】に基づいた拡張も見られる。人間は「足」を用いて様々な場所へ移動できる。つまり、「足」は、別の領域へ踏み入れる時に用いられる身体部位である。そのため、主体が別の領域に【移動】する行為が概念化されており、身体部位の「足」を用いる行為として、その支配領域に存在していると考えられる。すなわち、「足」を参照点として【移動】という概念にアクセスしているといえる。この場合、【移動】のスキーマの概念により、ある空間への【移動】を表す具体的意味があり、さらに、抽象的領域に【移動】する抽象的意味へと拡張している。この場合も「足」を参照点として言語化し、「足」の機能である【移動】の行為を表していると考えられる。

- (6) 用小学校旧教室改的病房，开始只有两间——一间男病房，一间女病房。每间病房里光患者就有十多个；加上陪住的家属，到晚上连插脚的地方都没有。  
[小学校の旧教室を改装した病室を使っていた。最初は二部屋——一部屋は男性用の病室、もう一部屋は女性用——しかなかった。各病室には患者だけで十人余りおり、付き添いの家族も加えると、夜には足の踏み場さえ無くなった]
- (7) 车厢里也没个定员限制，所以上车以后人们连个下脚的地方也找不到。  
[車両には乗客制限もなかったため、乗車後、人々は足の踏み場すら見つからなかった]
- (8) 原来，村民钱以兵起早，发现有人正在偷他饲养的鸡，于是大声喊起来。盗贼慌了，拔腿便逃。第一个闻声跑来的是村民胡继平。  
[本来、村人の銭以兵が早起きをしており、彼が飼育している鶏を誰かが盗もうとしているところを発見したので、大声で叫んだ。盗人は慌てて直ちに逃げ出した。声を聞いて最初に駆け付けたのは村人の胡継平であった]
- (9) 过去各国对电信业管制极严，例如英国电信公司、日本电电公社、美国电话电报公司等，分别是本国电信业的合法垄断者，外国企业很难插足。  
[以前は各国の電信業に対する統制が極めて厳格であった。例えば、イギリスの電信会社、日本の電電公社、アメリカの電話電報会社等はそれぞれ本国の電信業の合法的独占者であったため、外国企業が参入するのは困難であった]
- (10) 海尔集团自 1998 年 8 月份涉足 IT 产业以来，在信息产业一直保持着 30% 的持续稳定增长速度。  
[ハイアールグループは 1998 年 8 月より IT 産業に参入して以来、情報産業において 30 パーセントの安定した成長速度をずっと維持している]

例文 (6) と例文 (7) は、具体的領域である空間から別の空間へ「足」を踏み入れるという【移動】を表している。例文 (8) は別の空間から元にした空間へと【移動】という行為を行っている。例文 (9) と例文 (10) においては、具体的領域ではなく、抽象的領域への【移動】として捉えることが出来る。すなわち、身体部位の「足」を参照点から、その支配領域にある〈足を用いる行為〉にアクセスしており、それに加えて具体的領域における異なる空間への【移動】という概念に基づいていると考えられる。また、具体的領域から

抽象的領域への異なる領域への【移動】も行われている。すなわち、参照点構造によるメトニミー的拡張と異なる領域へのメタファー的拡張が行われていることから、メタファーとメトニミーの融合ということができる。

## V. “足”、“脚”、“腿”メタファー的拡張

“足”、“脚”、“腿”が、身体部位である「足」の空間的位置に基づいた拡張を行っている場合を見てみよう。この場合、「足」は身体の下部に位置していることから、〈物体の下部〉を指すことがある。

“足”、“脚”、“腿”がメタファー的拡張をしていると考えられる表現例を以下に挙げる。

(11) 这一带，在周代是麋国，在春秋战国是属于楚国。但在这支考古队的储藏室里收藏的，却是新石器时代的文物。这里有石锄、石刀，有鼎足的陶钵。

[この一帯は周の時代においては麋国であり、春秋戦国時代は楚に属していた。しかし、この考古学チームの保管室に収蔵されているものは新石器時代の文物であった。そこには石製の鋤や刀、陶製の鼎の鉢があった]

(12) 河底河石很滑，稍不小心就会跌倒。好容易到了桥脚，立刻爬上两根桥座，把炸药安置在桥架与桥座的接头处，然后点燃引线，跳下来就跑。

[川底の石は滑らかで、少しの不注意で転んでしまうであろう。漸く橋脚にたどり着くと、すぐに二本の橋座に上り、ダイナマイトを橋桁と橋座の繋ぎ目に設置した。それから導火線に火を点け、飛び降りて逃げた]

(13) 蹲了好一会儿，也没人理。视力所见都是桌子腿、椅子脚、墙根。

[かなり長い間蹲っていると、相手もいなくなった。見えたのはテーブルの脚や椅子の脚、壁の根元であった]

これらはいずれも身体部分を指しておらず、具象物における「足」の空間的位置、および「足」に類似しているある特定の部分を指していると捉えることができる。このとき、〈身体部位〉という領域から、〈物体部分〉という別の領域へと、メタファー的拡張をしていると考えられる。

上に挙げた例の場合、〈物体の下部〉として捉えることもできるが、「足」の〈機能〉に基づいた捉え方をすることもできる。「足」には「歩く」、「走る」、「踏む」、「蹴る」等といった様々な機能をもっているが、この場合の拡張は、「足」の身体を「支える」という〈機能〉であるということができる。

この場合の認知プロセスとして、以下のように分析できる。まず、「足」の認知領域として〈機能〉が存在し、そのなかに〈支える〉という意味が含まれている。つまり、この時「足」が参照点となり、その「足」という参照点が支配する認知ドメインの中にある〈支える〉という意味へアクセスしたと考えることができる。このように考えると、「足」の〈機能〉と〈支える〉という意味は「全体—部分」のメトニミーの関係であるといえる。

そこで、上に述べた〈物体部分〉の「足」も、〈支える〉という〈機能〉をもっていることから、〈身体部位〉の「足」のもつ〈支える〉という意味から、〈物体部分〉の「足」がもつ〈支える〉という意味へと、別の領域にメタファー的拡張が行われたと推察できる。この場合、両者において、共にメトニミー的拡張が行われた上でのメタファー的拡張であるため、このときの類似関係であるメタファーの背後には、認知領域におけるメトニミー的拡張が基盤になっていると考えられる。

また、「足」の空間的位置から、「足」に類似していないモノに用いる場合もある。

- (14) 如有一个 2,000 人口的中心村，垃圾堆放一直处于无序状态，在山脚、路边的一堆堆垃圾已经或正在成为一个个小山包。

[例えば 2,000 人の中心村には、ゴミのかたまりが無秩序にずっと放置されており、山の麓や路肩のごみの山は既に小さな丘のようになりつつあった]

- (15) 230 多件精雕的石板、石条、石柱基础被抬去砌猪圈、垒田埂、垫墙脚、修厕所，损坏情况十分严重，价值连城的国宝被当成废物遗弃糟踏，……

[230 余りもの精巧な石板、長石、石柱の基礎は豚小屋やあぜ道に積み上げられたり、塀の根元に敷かれたり、洗面所の修理のために運ばれていったりした。損害状況は非常に深刻であり、貴重な国宝は廃棄物となって捨てられ、破壊された]

この場合、上に挙げた例と異なり、「足」の〈機能〉に類似しているとは捉えることができない。しかし人間が直立した際に、下部に「足」が存在することから、〈物体部分の下部〉を指すようになったと推測できる。つまり、「足」の空間的位置である「下部」から、別の〈物体部分〉の〈下部〉という異なる領域へのメタファー的拡張であるといえる。この場合も〈身体部位〉の「足」と〈物体部分の下部〉といった空間的位置はメトニミー的拡張に基づいていることから、メタファーとメトニミーの融合であるといえる<sup>10</sup>。

さらに、「残余」を表す意味で用いられる場合もある。

- (16) 大豆蛋白纤维是从大豆榨油后的下脚料——豆粕中提取蛋白制成的，是我国在应用纤维领域唯一的原创技术。

[大豆のタンパク質繊維は大豆から油を搾りとった後の残りかすである。これは大豆粕の中からタンパク質を抽出して作られており、我が国の応用繊維分野における唯一の独創的技術である]

- (17) 从那鞋的样式，那细细密密的针脚上，我认得出来，这是谁做的。

[その靴のデザイン、細やかな縫い目から、私はこれが誰が作ったものかを見分けることができた]

「残余」は、「頭」の分析で記述したように、「端」の部分を別の表現で表したものである<sup>11</sup>。例文(16)の場合も同様に〈物体の下部〉である身体の「端」に位置していることから、〈物体の端〉を表すと考えられる。また、例文(17)においては、物体の「端」から「痕跡」として残ったものを示しており、同様に「残余」を表していると考えられることから、〈物体の端〉に関連した拡張であると分析できる。この場合も、〈身体部位〉である空間的位置から〈物体の端〉というメトニミー的拡張が行われ、その後、別の物体である異なる領域へのメタファー的拡張が行われたと考えられる。よって、メタファーとメトニミーが相互に関連していると考察できる。

<sup>10</sup> このとき、「足」、「腿」は用いられない。この場合も、上述した注 8 と同様に、最も認識され易いのが、「脚」の部分であるため、「空間的位置」である〈物体部分の下部〉としての拡張に「脚」が用いられるのであると考えられる。

<sup>11</sup> 「頭」の基本義と意味拡張については日下部(2005)を参照のこと。

## VI. おわりに

本稿では、認知言語学の視点から「メタファー」、「メトニミー」の概念を用いて、現代中国語における身体部位名詞である“足”、“脚”、“腿”の意味拡張について考察を行い、その認知メカニズムについて分析を行った。すなわち、身体部位名詞である“足”、“脚”、“腿”が参照点構造に基づいたメトニミー的拡張、【移動】のスキーマに基づいた拡張、「足」の「機能」や「空間的位置」に基づいたメタファー的拡張により、様々な意味で用いられていることを明らかにした。

また、“足”、“脚”、“腿”の様々な意味拡張における認知メカニズムにおいては、メタファーとメトニミーが相互に関連しており、両者が融合している点についても述べた。

現代中国語の身体部位名詞においては、本稿で扱った“足”、“脚”、“腿”以外にも、「頭」を意味する“头”、「手」を表す“手”などといった身体部位名詞が挙げられる<sup>12</sup>。これらの身体部位名詞も〈身体部位〉という基本義から他の様々な意味へと拡張しており、「メタファー」や「メトニミー」などの概念を用いて、その認知メカニズムを分析することができる。今後は、「目」を意味する“眼”、“眼睛”、“目”や「口」を表す“口”、“嘴”といった身体部位名詞についても考察を行っていきたい。

## 参考文献

- 1) 日下部直美:試論現代汉语中有关“身体部位名词”的语义扩展问题. 名古屋大学大学院国際言語文化研究科硕士学位论文, 2003
- 2) 靱山洋介:認知意味論のしくみ. 町田健・編, シリーズ・日本語のしくみを考える 5, 研究社, 東京, 2002
- 3) 佐藤信夫:レトリック感覚. 講談社学術文庫, 東京, 1978(=1992)
- 4) 张丽群:试论身体部位名词作量词使用时的特征. 中国語学. 日本中国語学会, 248:199-212, 2001
- 5) 日下部直美:试论“头”的基本义和语义扩展. 多元文化. 名古屋大学大学院国際言語文化研究科国際多元文化専攻, 5:201-211, 2005
- 6) 日下部直美:“手”の基本義とその意味拡張. 研究紀要. 星城大学, 20:35-40, 2020

## 例文検索

「北京語言大学中国語コーパス」:北京语言大学汉语语料库(BCC)(<http://bcc.blcu.edu.cn/>)

---

<sup>12</sup> “手”の基本義と意味拡張については日下部(2020)を参照のこと。